

## 85 非閉塞性肥大型心筋症と心尖部肥大型心筋症における虚血部位の差異に関する検討

杉原洋樹、谷口洋子、大槻克一、馬本郁男、志賀浩治、中川達哉、中村隆志、中川雅夫（京府医大 二内）

肥大型心筋症（HCM）では運動負荷タリウム心筋シンチグラム（EX-Tl）にて一過性虚血が高頻度に認められる。一方、心尖部肥大型心筋症（APH）と通常のHCMの異同については必ずしも統一見解のないのが現状である。そこで、非閉塞性肥大型心筋症（HNCM）40例とAPH28例を対象にEX-Tlを施行し、虚血所見の差異から両者の異同を検討した。HNCMでは50%、APHでは68%に虚血所見が認められた。HNCMでは非肥大部分を含む種々の領域に虚血が見られたが、APHでは心尖部にのみ虚血が見られた。肥大部分と虚血部位との関係を見る限り、HNCMとAPHは異なる様相を呈した。

## 86 肥大型心筋症の心筋虚血に対するVerapamilの効果—運動負荷Tl心筋シンチグラムを用いた検討—

谷口洋子、杉原洋樹、大槻克一、馬本郁男、中川達哉、志賀浩治、中村隆志、東 秋弘、河野義雄、中川雅夫（京府医大 2内）、宮尾賢爾（京二日赤 内）

運動負荷Tl心筋シンチグラム（EX-Tl）を用いて肥大型心筋症の心筋虚血に対するVerapamilの効果を検討した。EX-Tlにて一過性心筋虚血を認めた肥大型心筋症12例にVerapamil 240mg/日を経口投与し、平均8.8週後にEX-Tlを再施行した。Verapamil投与前後における心筋虚血の程度の差を視覚的および定量的に比較検討した。Verapamil投与後12例中9例（75%）で一過性灌流低下所見の消失または改善を認めた。また、心内膜下虚血の指標であるTransient Dilatation Indexも改善した。Verapamilは肥大型心筋症の一過性心筋虚血を改善することが示され、その効果判定にEX-Tlが有用である。

## 87 心不全状態の拡張型心筋症における<sup>201</sup>Tl心筋SPECTの特徴

田中 健、中野 元、加藤和三（心臓血管研究所）

増加した<sup>201</sup>Tl肺内取り込みの心筋SPECTに対する影響を心不全状態にある拡張型心筋症15例において検討した。SPECTでも心筋部位と肺との境界の分離は出来なかった。<sup>201</sup>Tl肺内取り込み増加により側壁が肥大しているように、時には側壁の欠損が修飾されるように、また中隔の取り込み低下が強調されるように表現され、遅延像によりこの影響が軽減することも明らかとなった。遅延像で中隔の<sup>201</sup>Tl摂取率は平均8(2-17)%増加したが、これは側壁において<sup>201</sup>Tl肺内取り込みの散乱によるカウント増加が改善したことの反映で見掛けの再分布現象と推定されたと考えられた。ファントム実験の結果からも増加した<sup>201</sup>Tl肺内取り込みの散乱により隣接心筋部位のカウントが高まることが示唆された。

## 88 拡張型心筋症(DCM)の臨床像を呈し、かつ病理学的に炎症所見をもつ例の核医学的検討

桑原洋一、豊崎哲也、滝沢太一、藤井清孝、唐木章夫、山崎行雄、斉藤俊弘、稲垣義明（千葉大学第三内科）

DCM様の臨床症状を持つ例に対し心筋生検を施行した連続10例のうち、Dallas Criteriaにて心筋炎と診断されたものは5例存在し、そのうち2例は著明な炎症が続いていた。しかし、TcあるいはGaシンチ上心筋に集積の認められたものはなかった。心プールシンチの左室駆出率(EF)は運動負荷前後とも心筋炎所見を持つ例に低下している傾向があった。心筋炎が著明であった2例に対して3ヶ月間ステロイドを使用し、負荷前後のEFならびに肺動脈圧の改善がみられた。

【まとめ】病理学的な心筋炎所見が必ずしも核医学的に証明されるわけではないが、運動負荷心プールによる心機能測定が心筋炎の病態ならびに治療効果の判定に有用であると考えられた。

## 89 進行性全身性硬化症(PSS)における<sup>201</sup>Tl心筋SPECTの検討

澤 祥幸、後藤絃司、八木安生、鷹津久登、出口富美子、寺島 寧、長島賢司、田中春仁、縄田万寿美、安田憲生、平川千里（岐大 2内）、前田 學、森 俊二（岐大皮）

【目的】PSSにおける“心病変”を検討する目的で、安静時<sup>201</sup>Tl心筋SPECTを施行し、ECG、UCG所見と比較検討した。【対象及び方法】PSS11例を対象に安静時early像(E像)と2時間後のdelayed像(D像)を撮像した。【結果】E像にて視覚的にlow densityまたはdefectが6例(55%)、uptakeの不均一が4例(36%)認められ、このうちD像にて再分布を認めたのは1例であった。またUCG上1例(9%)に壁運動異常を認めた。<sup>201</sup>Tl心筋SPECTにて異常のあった8例のうちECG上Q波1例、R波増高不良3例、ST-T変化2例であった。<sup>201</sup>Tl心筋SPECTはPSSの“心病変”検出に有用であると思われる。

## 90 心サルコイドーシスにおけるTl-201およびGa-67による心筋SPECTの有用性

岡山憲一、俵原 敬、倉田千弘、小林 明、山崎 昇（浜医大 三内）

Tl-201およびGa-67心筋SPECTが診断および治療効果判定に有用であった心サルコイドーシス症例4例を経験した。

4例全てにおいてTl-201の斑状の欠損像を認めた。うちTl-201の欠損部に一致してGa-67の集積を認めた2例においては、副腎皮質ホルモン投与によりGa-67集積の消失とTl-201欠損部の縮小を認めた。しかしTl-201欠損部にGa-67集積を認めなかった2例においては、副腎皮質ホルモンによるTl-201集積の改善を認めなかった。よってTl-201の斑状欠損、および同部位のGa-67の集積の有無は、心サルコイドーシスの診断・予後予測に有用と考えられる。